

第55号

身近な福祉のパイプ役

社協 いくた

(題字 遠藤 恭 筆)

生田地区社会福祉協議会

川崎市多摩区登戸1891

第3井出ビル3階

電話 044(935)5500

発行人 西尾 信

編集総務部

ご挨拶



生田地区
社会福祉協議会
会長 西尾 信

生田地区にお住まいの会員の皆様には日頃より生田地区社会福祉協議会の活動にご理解、ご協力、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

令和5年度の活動につきましてはコロナも減少し、社会活動も活発になりました。当協議会もコロナで中止、縮小していた事業も実施出来ました。各実施内容につきましては各部の活動報告をご覧ください。

私からはこうした活動にご協力出演頂いた皆様、津軽三味線、マジック、バンド演奏、そして、榮太樓總本舗様よりあんなこの食材提供等々全ての皆様に感謝を申し上げます。

当協議会では、市社協活動方針のもと、関係機関、関係諸団体と連携し、地域の皆さんがお互いに助け合い、安全で安心して暮らせる「地域共生社会」の構築に努めてまいります。引き続きのご協力、ご支援をお願い申し上げます。

総務部

今年度から「総合企画部」は「総務部」へ名称変更となり、新たなスタートの1年となりました。総務部は今年度、次の四つの事業計画を設定し実施致しました。

一つ目は「福祉感謝の集い」の実施です。昨年9月15日に多摩市民館にて開催しました。こちらは、賛助会員の日頃の感謝のお礼として毎年開催していましたが、コロナの影響で4年ぶりの開催となりました。

演芸は2部構成で開催され、第1部は津軽三味線演者の「村松菊誌師匠」と尺八演者の「長崎翠鳳師匠」による共演で日本各地の民謡を北から南へと演奏と唄を披露して頂きました。第2部は、男性カルテット「グルーヴィー・グランパーズ」による平均年齢82歳の年齢を感じさせない歌唱力と、軽快なMCで会場が大いに沸き、参加者から次回も是非参加したいとの声をあちこちから頂きました。

2つ目は、理事研修会の実施です。2月29日に理事37名に参加を頂き、有明にある東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)でタブレットを使ったの視察・研修会を実施致しました。震災時にかに生き抜くかの知恵を学ぶ防災体験ツアー「東京直下7.2HTOUR」に参加致しました。

研修実施日は能登半島地震の直後で

もあり、理事の皆さんは真剣に視察されていました。

3つ目は、部会研修会ですが、こちらは2月21日に、西生田にある「特別養護老人ホーム生田広場」を訪問・研修してきました。こちらは9割の方が認知症で且つ、要介護3以上の方を受け入れている施設であります。プライベートとコロナの関係で居室を見学することは出来ませんでした。神田施設長を始め職員の方々が、入居者に思いやる姿と介護のお話をお聞きすることができ、心打たれました。

4つ目は、本誌『社協いくた』の発行です。現在は年1回の発行ですが、来年度からはよりタイムリーに活動をご報告をするために、年2回の発行を予定しています(7月・2月頃)。引き続き社会福祉協議会へのご理解とご支援を宜しく願います。

部長 山本 隆



高齢者・障がい者福祉部

今年度は、「長寿を楽しもう」を10月に土淵クラブ、西三田団地集会所、東生田会館、生田出張所大会議室、錦ヶ丘老人いこいの家、大作自治会公民館、長沢自治会館、11月に南生田中学校の8会場で開催致しました。各会場とも、健康体操もしくは健美体操を行った後、レクリエーションを行いました。

体操では、大股で歩く、地面を蹴る、足の裏を後ろにみせることをしっかりと行いながら、手と足の動きを複雑に連動することで脳に刺激を与えることが、認知症予防にもなるとのことでした。しかしみなさんとなりに出来なくて、かなり苦労していました。それが刺激になっていとお聞きしたので頑張つて動かししていました。

また、演奏会ではオカリナ演奏やCMBクレイジー三田バンドの出演がありました。昨年度はコロナ禍で会場では歌うことはできませんでしたが、今年度はみんなで一緒に歌うことができました。マジックショーや落語の演目もあり、あつという間に時間が経ち



ました。

声を出して笑ったり、みなさんの笑顔が溢れていたり、集まって一緒に時間を共有することの大切さを感じました。

今後とも参加したいと思つて頂けるような空間をスタッフ一同で作つていきたいと思ひます。

部長 米山多津夫

婦人幼児福祉部

今年度の「ニコニコ広場」の活動については、スタッフはマスクを着用する等、感染対策に配慮しながら、毎月第3木曜日に開催してまいりました。

「歯科衛生士による乳児口腔ケア」の講演では、子どもが日ごろ使っている歯ブラシを持ってきて頂き成長にあった歯の磨き方などをご指導頂きました。

保育園の先生をお招きした時には、保育園で行つていらっしゃるお遊戯などを身振り手振りで、子どもたちに教えて頂いて一緒に楽しんだり、季節ごとの作品を親子で製作したり、ゲームを楽しんだりしました。磁石のついた釣り糸でスタッフ手作りの魚を釣るゲームは子どもよりママが夢中になっていました。

畳の部屋を思いっきりかけ回つている子ども達のそんな様子を見ながらママにとってこのひと時が気持ち

が和む時間になつていたらと感じています。

部会研修会として、区役所の地域みまもり支援センターの保健師さんに「現在の子供の実情、生活について」のお話をさせて頂き、とても参考になりました。

今後は栄養士さんのお話など、親子のためになるような企画を考え活動してまいります。部長 藤村留里



会食委員会

会食会は、高齢者のひとり暮らしの方、日中独居の高齢者の方などが対象で、生田地区の民生委員児童委員が中心で準備する催しです。

令和2年より新型コロナウイルス感染症拡大で中止となつていましたが、今年度は、令和5年9月から令和6年2月にかけて錦ヶ丘老人いこいの家で3回、枳形老人いこいの家で1回、長沢自治会館で1回、計5回行いました。

当日のスケジュールは、各会場11時30分から受付、12時よりお食事、その後各会場それぞれのお楽しみ会、13時30分ごろ終了でした。

今年度は榮太樓總本舗様より頂いたあんこを使って甘味を提供し、喜んで頂きました。

各会場には30人以上の方が足を運んでくださいました。終了後は皆さん笑顔で元氣にお帰りになされたことがとても印象的でした。皆さんの笑顔を見られることが私達にとつて一番の幸せです。大勢の方と一緒に楽しさを共有したり、おしゃべりする時間はとても大切なことだと思ひます。

会食会に参加して楽しいひと時を過ごしませんか。お近くの民生委員にお声かけください。委員長 篠崎眞佐子



青少年福祉部

第49回「中学生が語る会」を令和5年12月8日、生田中学校、枳形中学校、南生田中学校の生徒合わせて40人と共に生田出張所で開催致しました。

テーマは「わが街の社会資源を活用しよう」地域見守りネットワークでした。社会資源をより具体的な活用をグループに分け、生徒を中心に真剣に話し合いました。

第1グループは「生田出張所の活用」では地域のコミュニティの拠点として、イベントや展示等をしたという意見がありました。

第2グループは「地域自治会、町会等の活用」は自分がどの町会かをまず知り、自治会活動に中学生が参加したいという意見がありました。

第3グループは「多世代交流の学校、団体、企業等の活用」では、小学生、高校生との真ん中にある中学生が中心となり、大人と共に地域を回るイベント等で交流をしたいという意見がありました。それぞれのグループの発表後には生徒から「実現出来たら楽しい」「地域をもっと知りたい」との感想がありました。

そして感想文では、「私たちの街をより良くしていくためには、まず自分たちの街について理解を深めることが大切」や「地域の人と沢山かわり、街の行事に積極的に参加する意識を持つことが必要」と多くの生徒

さんが書いてくれていました。それに加え「発言することの難しさや自信を持つことの大切さに気付くことができた」と、「多くの意見を聞くことの重要性、積極的に話すことの大切さを感じた」

「たくさんの人たちで意見を出し合って深めていくことでより良い意見が生まれることを改めて実感した」など普段接していない3校の生徒さんたちがお互いを尊重しながら話し合ってくれている事を嬉しく思います。

昨年の10月1日には「第48回中学生が語る会」での意見を活かして生田駅で赤い羽根共同募金を中学3校の生徒と一緒に活動出来ました

今後私たち青少年福祉部は中学生の思いを受けて、実現可能な社会資源を活用した地域見守りネットワーク事業を行っていききたいと思えます。

部長 大矢浩司



お年寄りのつどい実施委員会

第39回生田地区お年寄りのつどいが令和5年11月10日(金)午前9時30分から多摩市民館大ホールにて開催されました。

今年度はいつもの会場である生田小学校が創立150周年行事の開催などにより、体育館使用が難しく、初めて多摩市民館大ホールでの開催となりました。

午前中のみの短時間の開催ということで実施委員会で何度も話し合い、多摩市民館のスタッフの方とも打合せを重ね、実施しました。合奏、フラダンスなど15団体の演芸があり、日頃の練習の成果を発表して頂きました。

多摩市民館大ホールの大舞台で発表される皆様の姿は、生き生きと輝いていました。

出演された皆様の機敏な入退場や、当日のお手伝いの係の方々、多摩市民館のスタッフの方々など、皆様のご協力により、盛況のうちに予定通り閉会することができました。今回は会場の都合で、絵画、写真、手芸などを展示して頂くことができません。



なかったことなど、反省点はありましたが、今後改善していきたいと思えます。副委員 永飯都子

赤い羽根共同募金

赤い羽根共同募金を10月1日から3日間、生田駅(北口・南口)と読売ランド前駅にて行いました。

ここ数年、コロナ禍で中止や時間を短縮して行ってきましたが、今年度は例年通り行えました。

昨年度は枳形中学校の生徒さんが参加してくれましたが、今年度は枳形中学校、南生田中学校、生田中学校の3校の生徒さんが、10月1日生田駅(北口・南口)で、募金の呼びかけを一緒に行ってくれました。

枳形中学校1年齊藤瑛心さんは「募金をしてくれる人がたくさんいて良かった。声をかけてくれる人もいて嬉しかった。自分にもできることがあるんだと思った。今後にも生かしていきたいと感じた」と語ってくれました。

生徒のみなさんが地域に目を向け、自分が出来る社会貢献に参加してくれることに感謝しています。



おしまします

魅力あるひとと 飯室谷町会



緑豊かな生田緑地の自然に囲まれた飯室谷町会は、東生田2丁目に位置し「生田緑地入口」交差点を中心に約300m以内に広がる330世帯の町会です。

4年前から美しい町作りを目指し、今では町会のゴミ箱8か所と5か所ある花壇がフラワープロジェクトチームにより毎月手入れされ、いつも季節毎の花で飾られています。

春と秋に行われる町内清掃には約100名の町会員が参加し、町全体を綺麗にしています。

今年度は川崎市より「わがまち花と緑のコンクール」団体部門で大賞を、そして「環境功労賞」を受賞し、今や故郷として自慢の出来る美しい町となっています。

生田緑地に訪れる多くの人達が花壇の前で足を止めたり、写真を撮ったりしています。

生田緑地の山に囲まれ、飯室谷町会の殆どが土砂災害危険地帯に指定されている為、町会員の防災意識は高くAEDがいつでも誰にでも使えるよう町の中心に設置され、高齢者で

も使える消火ホース器具、テント付き簡易トイレ等実践に即した防災器具が整備されています。

毎年春と秋に実施される自主防災会議と防災訓練では、春は防災の専門家による講演を、秋は多摩消防署員の下、町会の器具を使って参加者全員が放水訓練やAED等の訓練を行っています。

防犯対策としては毎月第1〜第3の水曜日に4、5名で東生田小学校に通っている子供達の下校の見守りと町内パトロール、そして年末には夜のパトロールも行っています。

お祭りでは、約50名の町会員が実施委員として参加し、近隣の子供も加わり多くの子供達でいつもゲームコーナーは大盛況を呈しています。

常に子供や若い人達の声が届き、高齢者や障害者にも優しい、皆が住み易い故郷として魅力ある町作りを進めてまいります。会長 加藤寛之



株式会社 榮太樓 総本舗様に感謝状

(株) 榮太樓 総本舗 細田社長に、生田地区社会福祉協議会(会長 西尾信)より感謝状を贈呈させて頂きました。

私も社会福祉協議会の行っている会食会にあんこを提供して頂きました。高齢者ふれあい活動の一環で始まった会食会。食事を通して地域の中での孤立感の解消、外出の機会の提供をはかり、心身の機能低下を予防することを目的として行

っております。会社のSDGsの取り組みの一環として地域福祉事業に賛同し、あんこの提供をしてくださいました。



令和5年度 生田地区社協事業報告

次のとおり事業を実施いたしました

- 9・15 福祉感謝の集い(多摩市民館)
- 9・28 第1回高齢者会食会(錦ヶ丘老人いこいの家)
- 10・1 赤い羽根共同募金活動
- 10・3 賛助会員募集活動
- 10・4 長寿をたのしもう(土浦倶楽部)
- 10・5 長寿をたのしもう(西三田団地集会所)
- 10・11 長寿をたのしもう(東生田会館)
- 10・12 長寿をたのしもう(生田出張所大会議室)
- 10・18 長寿をたのしもう(錦ヶ丘老人いこいの家)
- 10・26 長寿をたのしもう(大作自治会公民館)
- 10・26 第2回高齢者会食会(新形老人いこいの家)
- 10・26 婦人幼児福祉部研修会(多摩区の子どもの表情)
- 10・27 長寿をたのしもう(長沢自治会館)

賛助会員募集

賛助会員とは、多摩区社会福祉協議会と多摩区内の生田地区社会福祉協議会を含めた5つの地区社会福祉協議会(登戸・菅・中野島・稲田・生田)が進める地域福祉活動の趣旨にご賛同頂き、一口一、〇〇〇円の賛助会費を納めていただくことで地域福祉活動を支援して頂くものです。

令和5年度の募集は、昨年の口座振込や福祉バルへの持参を止めて、例年の個別訪問に戻る形での募集となりました。その結果、個人・団体様から昨年の実績を大幅に上回る金額の134万8000円(2月20日現在)が生田地区内で集まりました。ご協力頂きました皆様様に心から御礼申し上げます。

共同募金運動

令和5年度生田地区分会実績
赤い羽根共同募金 167万7214円(20現在)
年末たすけあい募金 230万9265円(20現在)
皆様からの募金は地域の社会福祉に役立てられます。
ご協力ありがとうございました。

